

## 第2次エコキャンパス・グリーンキャンパス推進基本計画 〈首都大学東京〉＝荒川キャンパス編＝

### 1 はじめに

本法人の第三期中期目標では、環境への配慮として「法人の社会的責任や東京都の施策、関係法令等を踏まえ、法人全般において環境配慮に努める。」としているところ、本キャンパスにおいても、省エネ法の「5年間平均のエネルギー消費原単位を年1%以上低減」という努力目標の達成に向け、良好な教育研究環境を提供していくことを前提としつつ、エコキャンパス・グリーンキャンパスを一層推進していく必要がある。

今回策定する基本計画は、上記、努力目標を達成することを考慮し、策定を行う。

また、省エネ法の努力目標にとどまらず、本法人の環境保護方針に基づき、大都市の持続的な発展のため、環境に配慮した取り組みを組織的に進めるべく基本的な対応策を策定する。

### 2 計画策定に当たっての基本的な考え方

- 良好な教育研究環境を提供していくことを前提としつつ、法令上の努力目標を着実に達成する。
- 大学に求められている社会的責任を十分に踏まえ、実施主体が計画的かつ自発的に環境に配慮した行動を積極的に進める。
- 施策を効果的、有機的に進めるため、大学の環境マネジメントが十分に機能するよう特に留意する。

### 3 実施主体(関係者)

教職員、学生、学外施設利用者等

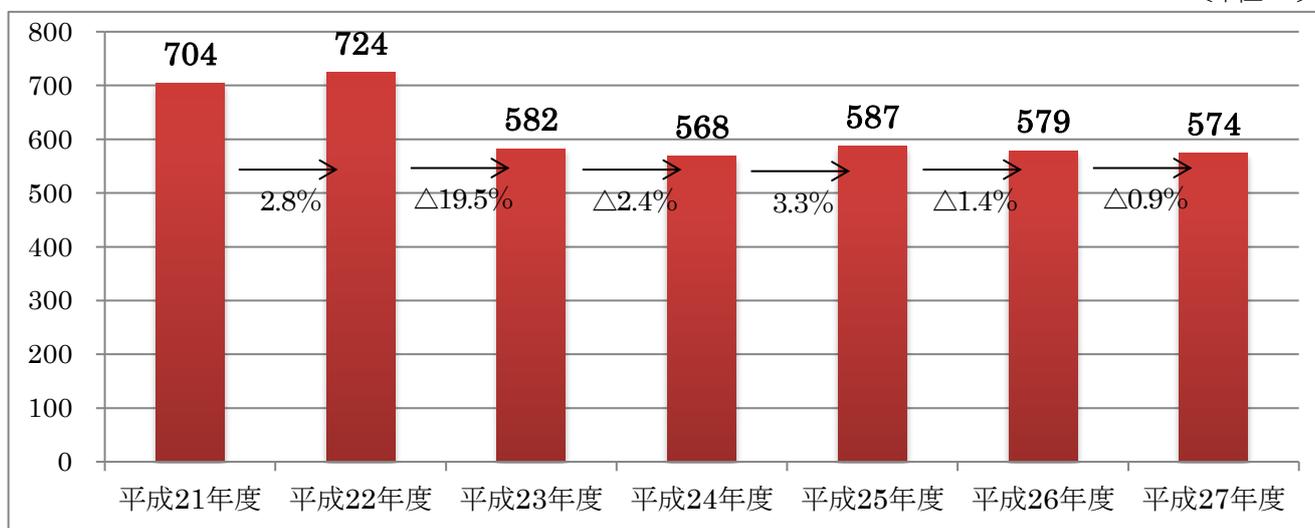
### 4 計画期間

平成29年度から平成31年度

### 5 これまでの取組実績及び評価

【荒川キャンパスにおけるエネルギー消費量の実績値の推移】

[単位:k0]



※省エネ法に基づく原油換算方法(簡易計算シート)による概算値

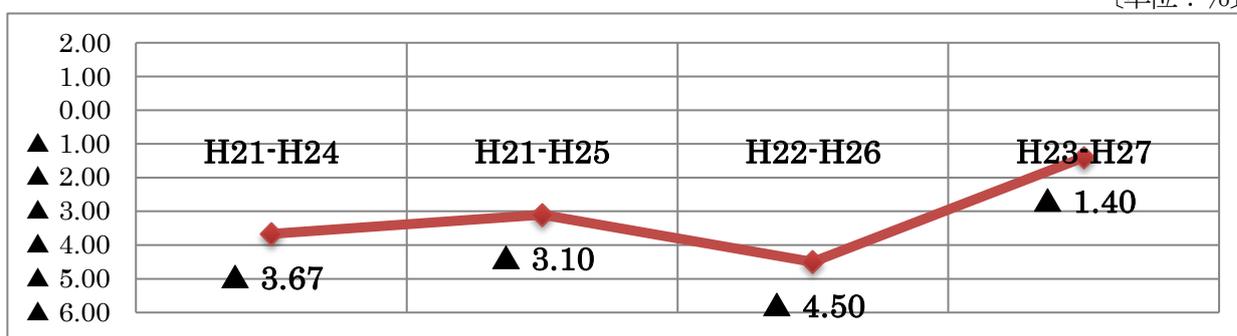
省エネ性能の高い設備・機器への更新が一定程度進捗し、エネルギー消費量が下げ止まり傾向となっている。平成28年度には体育館に空調機器を新設したこともあり、エネルギー消費量低減のための一層の努力が必要となる。またエネルギー消費量の増減は、気温の高低に大きな影響を受ける側面もあるため、毎年度、継続して低減し続けることは困難な状況となりつつある。

**【参考】省エネ法におけるエネルギー消費量低減の努力目標の達成状況(法人全体が一括で 対象)**

平成27年度実績まで、法人全体で、継続して、省エネ法における努力目標である5年間平均のエネルギー消費原単位の年1%以上低減を上回っている

**省エネ法に基づく5年間平均のエネルギー消費原単位の低減実績の推移(法人全体)**

[単位：%]



**【省エネに配慮した主な施設整備】**

各種設備・機器の老朽化に伴う更新等に合わせ、省エネ性能の高い設備・機器を導入

(H24年度)

電気温水器の更新：図書館棟2階更衣室

(H26年度)

プロジェクターの更新：校舎棟4階講義室

湧水ポンプの更新：校舎棟機械室下

(H28年度)

空調機器、照明(LED化)の更新：増築棟

トイレ等の更新：増築棟、体育館

**【ソフト面での主な取組】**

(照明の削減)

- ・適正な照度を確保した照明の削減

(設備の効率的な運転)

- ・中央空調設備の効率的な運転に努めた。
- ・冷房期間以外にも温水を使用する実習室について、ボイラーの効率的な運用に努めた。

(省エネ意識の醸成)

- ・ポスター等による節電等の啓発強化
- ・キャンパス HP の専用コーナーの充実

(地域社会との連携)

- ・高齢者・障がい者の生活環境等に関する研究
- ・放射線の測定

## 6 第2次計画期間中の具体的な施策展開

平成24・26・27年度は、エネルギー消費量(原油換算)について前年度比で概ねマイナス1%を達成するなど着実にエコキャンパス・グリーンキャンパスを推進してきた。

第2次基本計画策定にあたってはこれまでの取り組みの中で有効と考えられる取り組みについては継続しつつ、新設された体育館空調や更新・増設した増築棟の空調等の運転管理に留意しながら、良好な教育研究環境の提供に配慮し、荒川キャンパスの現状に即したエコキャンパス・グリーンキャンパスを展開していく。

### 1 環境負荷軽減

(1) 省資源・省エネルギー対策

#### 【目標】

省エネ法に基づく削減数値目標の達成

- ・「5年間平均のエネルギー消費原単位を年1%以上低減」という努力目標の達成

#### 【具体的な取組】

[ハード対策]

**(継) 老朽化している電気設備等を省エネ性の高い機器へ計画的に更新**

(具体的な工事(予定))

平成29年度 エレベーターの更新:校舎棟

平成30年度 高圧受電設備の改修:校舎棟

**(継) 省エネ性能の高い機器などの導入の検討**

**(新) 小規模太陽光発電設備の導入の検討**

#### 【平成29年度の主な取組】

- ・蓄電池設備の更新
- ・エレベーター(校舎棟)の更新工事の実施

[ソフト対策]

**(充) 設備の運用改善**

- ・空調の新増設(体育館、増築棟)を考慮するとともに、既存の各種設備の運転・制

御の方法を再点検したうえで、中央空調設備等の効率的な運用を検討

- ・設備の効率的な運用について、専門的知識を有する建物管理委託業者と連携して実施する
- ・個別空調の温度設定（冷房28℃、暖房20℃）管理を徹底する
- ・外部の専門家による省エネ診断等の受診を検討（南大沢キャンパスでの実施結果を踏まえ）

**(継) 照明の削減、中央空調の室温管理の徹底等**

- ・良好な教育研究環境を維持する前提のうえで、適正な照度・温湿度（冷房28℃、暖房20℃）となるよう対応

**(充) 教職員、学生への啓発の強化**

- ・ポスター等による節電等の啓発を強化する。
- ・エネルギー使用状況を情報提供する。
- ・キャンパス HP の専用コーナーを充実する。

**【平成29年度の主な取組】**

- ・空調の新設等を考慮した中央空調設備の効率的な運用
- ・個別空調の温度設定管理の徹底を周知
- ・ポスター等による節電等の啓発を強化

(2) 廃棄物・汚染物質処理の適正化

**【目標】**

- ・法令に基づく廃棄物・汚染物質の適正な処理の徹底
- ・廃棄物・汚染物質の排出量の削減

**【具体的な取組】**

**(充) 廃棄物・汚染物質の排出量の削減**

- ・更なるペーパーレス化を推進する。
- ・廃棄物の分別処理及びリサイクルを徹底する。
- ・廃棄物・汚染物質の排出量を情報提供する
- ・パソコン等の不用品の売払いを検討する。

**(充) 教職員、学生への啓発の強化**

- ・リサイクルに関するセミナー等を開催する。
- ・ポスター等による廃棄物・汚染物質の適正処理等の啓発を強化する。
- ・ペットボトルキャップを回収し、その売却益により発展途上国へのワクチン寄付等を行う社会貢献を検討する。

【平成29年度の主な取組】

- ・更なるペーパーレス化を検討する。
- ・廃棄物・汚染物質の排出量を情報提供する。
- ・ペットボトルキャップを回収し、その売却益により発展途上国へのワクチン寄付等を行う社会貢献を検討する。

## 2 環境教育

【目標】

- ・教育を通じた学生の環境問題意識の醸成

【具体的な取組】

**(継) 環境への配慮、節電・省エネへの協力**

- ・実習室などの学生が使用する教室の照明・冷暖房の管理について協力を呼びかける。
- ・実験実習装置等の機材や消耗品・薬品の管理及び処分方法、印刷紙・トナーの管理等について、学年担任や各科目担当教員が協力を呼びかける。

**(継) 放射線同位元素の安全・除染除去・環境放射線管理等の教育**

- ・放射線同位元素の安全・除染除去・環境放射線管理等の教育を行う。

**(新) 学生への啓発**

- ・各学年向けガイダンスにおけるエコへの取組の説明を行う。

**(新) ペットボトルキャップ回収の取組**

- ・ペットボトルキャップを回収し、その売却益により発展途上国へのワクチン寄付等を行う社会貢献を検討する。

【平成29年度の主な取組】

- ・環境への配慮、節電・省エネへの協力呼びかけ
- ・放射線同位元素の安全・除染除去・環境放射線管理等の教育
- ・学生への啓発
- ・ペットボトルキャップを回収し、その売却益により発展途上国へのワクチン寄付等を行う社会貢献を検討

## 3 環境研究

【目標】

- ・高齢者・障がい者の生活環境向上
- ・研究機器の有効活用

【具体的な取組】

**(継) 高齢者・障がい者の生活環境研究**

- ・地域との連携の下、地域在住の高齢者・障がい者の生活環境や福祉用具に関する研究を行う。

**(継) 地域と連携した放射性物質飛散分布の同定・定量把握等**

- ・放射性物質飛散分布の同定・定量把握、土壌・食品・花粉などの放射能測定、放射能汚染水の浄化等を行う。

**(継) MRI 等の研究機器の効率的な活用**

- ・MRI 実験・実習安全委員会等でキャンパス内の研究機器の効率的な運用について検討する。

【平成29年度の主な取組】

- ・高齢者・障がい者の生活環境研究
- ・地域と連携した放射性物質飛散分布の同定・定量把握等
- ・MRI 等の研究機器の効率的な活用

#### 4 環境マネジメント

【目標】

- ・荒川キャンパスにおける環境負荷を軽減
- ・学生、教職員等の協働による自律的・持続的な環境マネジメントシステムの構築

【具体的な取組】

**(継) 省エネ法、環境確保条例等の法令を遵守**

- ・法令等で定められている役職を適切に選任し、適切な管理を行う。
- ・法令等で提出が定められている報告書、計画書を適切に提出する。

**(新) 積極的な情報提供**

- ・電力使用量やごみ排出量をキャンパス HP の専用コーナーに掲載する。

**(継) PDCAサイクルの確立**

- ・エコキャンパス・グリーンキャンパス推進委員会荒川キャンパス部会の活動を活性化させる。

【平成29年度の主な取組】

- ・積極的な情報提供
- ・PDCAサイクルの確立

## 5 地域社会貢献

### 【目標】

- ・健康・医療等に関する教育・研究活動から得られた知見を元に、東京都や荒川区等と連携して環境を保全・改善

### 【具体的な取組】

#### **(継) 都民・事業者・東京都・荒川区等との連携**

- ・東京都、荒川区等と高齢者・障がい者の生活環境等に関する研究等、放射線に関する研究や測定等を通じた協働を深める。

#### **(新) 学生、教職員等のボランティア活動**

- ・ペットボトルキャップを回収し、その売却益により発展途上国へのワクチン寄付等を行う社会貢献を検討する。

### 【平成29年度の主な取組】

- ・都民・事業者・東京都・荒川区等との連携
- ・学生、教職員等のボランティア活動

## 7 計画の進行管理

エコキャンパス・グリーンキャンパス推進委員会荒川キャンパス部会が行う。

基本計画に掲げた目標を着実に達成するために、毎年度、実施計画を策定し、各種取組を推進する。必要に応じて、エコキャンパス・グリーンキャンパス推進委員会や教育研究審議会、経営審議会へ報告を行う。

取り組んだ対策について、部会等の構成員、事務局が効果の実績報告を行い、取組み方法の見直し、新しい取組みに反映するよう、部会等で検討していく。(PDCAサイクル)